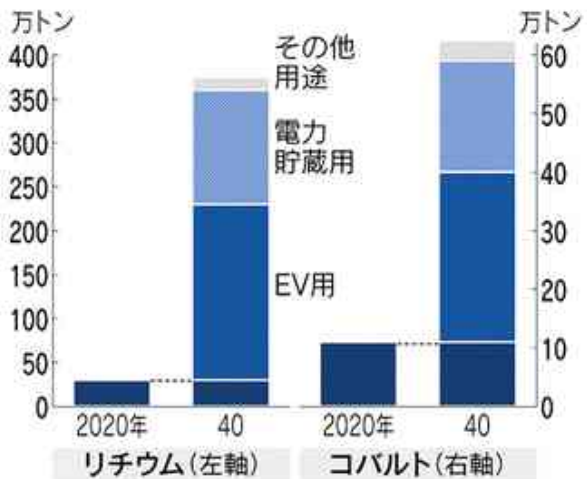


## 鉱物資源

## EV・再生エネ向け需要増

きょうの「J」

脱炭素で電気自動車向けなどの需要が増加



(注)40年はカーボンゼロなどを前提とする用途別増加見通し  
(出所)WoodMackenzie

0年に20年の12・5倍の375万トに増え、増加分のうちEV用が200万ト、電力貯蔵用が130万トを占めると予測する。安定確保が課題になり、調達先の多様化のほかレアメタルの使用量を減らす技術開発も活発になっている。

▽：地下に埋蔵されている有益な鉱物の総称。銅やリチウムなど鉱物の種類ごとに異なる特性を持つ。特に産出量が少ないものや抽出が難しいものはレアメタル（希少金属）と呼ばれ、高性能磁石に使うネオジムやバッテリーに使うコバルトなどが該当する。少量を金属に添加すると耐熱性や磁性などの性能を加えられる。

▽：レアメタルの生産は一部の国や地域に偏る傾向が強く、特に中国の生産シェアが高い。日本企業はリチウムの需要が2040年に20年の12・5倍の375万トに増え、増加分のうちEV用が200万ト、電力貯蔵用が130万トを占めると予測する。安定確保が課題になり、調達先の多様化のほかレアメタルの使用量を減らす技術開発も活発になっている。

▽：電気自動車（EV）や太陽光・風力発電などの再生可能エネルギー、送配電設備などの需要が伸びると、蓄電池やモーター、電線などで使う鉱物資源の需要も高まる。英調査会社のウッドマッケンジーはリチウムの需要が2040年に20年の12・5倍の375万トに増え、増加分のうちEV用が200万ト、電力貯蔵用が130万トを占めると予測する。安定確保が課題になり、調達先の多様化のほかレアメタルの使用量を減らす技術開発も活発になっている。

▽：地下に埋蔵されている有益な鉱物の総称。銅やリチウムなど鉱物の種類ごとに異なる特性を持つ。特に産出量が少ないものや抽出が難しいものはレアメタル（希少金属）と呼ばれ、高性能磁石に使うネオジムやバッテリーに使うコバルトなどが該当する。少量を金属に添加すると耐熱性や磁性などの性能を加えられる。

▽：電気自動車（EV）や太陽光・風力発電などの再生可能エネルギー、送配電設備などの需要が伸びると、蓄電池やモーター、電線などで使う鉱物資源の需要も高まる。英調査会社のウッドマッケンジーはリチウムの需要が2040年に20年の12・5倍の375万トに増え、増加分のうちEV用が200万ト、電力貯蔵用が130万トを占めると予測する。安定確保が課題になり、調達先の多様化のほかレアメタルの使用量を減らす技術開発も活発になっている。

▽：地下に埋蔵されている有益な鉱物の総称。銅やリチウムなど鉱物の種類ごとに異なる特性を持つ。特に産出量が少ないものや抽出が難しいものはレアメタル（希少金属）と呼ばれ、高性能磁石に使うネオジムやバッテリーに使うコバルトなどが該当する。少量を金属に添加すると耐熱性や磁性などの性能を加えられる。

▽：電気自動車（EV）や太陽光・風力発電などの再生可能エネルギー、送配電設備などの需要が伸びると、蓄電池やモーター、電線などで使う鉱物資源の需要も高まる。英調査会社のウッドマッケンジーはリチウムの需要が2040年に20年の12・5倍の375万トに増え、増加分のうちEV用が200万ト、電力貯蔵用が130万トを占めると予測する。安定確保が課題になり、調達先の多様化のほかレアメタルの使用量を減らす技術開発も活発になっている。